

第 69 回 河川レンジャー制度運営委員会 議事要旨

開催日：令和 5 年 6 月 14 日（水）14:00～16:30

実施場所：オンライン+対面（ウォーターステーション琵琶 1 階会議室）

出席者：制度運営委員会委員：中谷、北井、沼田、平山、矢野

琵琶湖河川レンジャー：根木山、水上、福西、野村、（欠席：西島）

事務局：琵琶湖河川事務所；田中、松田、安田

流域連携支援室；中西、松岡、井上、寺井、小野、深澤

（敬称略）

1. 議事

- (1) 委員長・副委員長の選出
- 報告(2) 第 68 回委員会の開催結果（議事要旨）
- (3) 第 68 回委員会以降の河川レンジャー活動支援室の主な取組状況
- 審議(4) 河川レンジャー年間活動計画（案）の承認について

2. 結果 [凡例：○ 委員、□ 河川レンジャー]

(1) 委員長・副委員長の選出

琵琶湖河川レンジャー制度運営委員会規約第 7 条 2 項の規定に基づき、出席委員の互選により今年度の委員長、副委員長が選出された。

役職	選出	区分
委員長	中谷 委員	学識経験者
副委員長	北井 委員	住民

(2) 報告

事務局より「第 68 回委員会の開催結果」「第 68 委員会以降の河川レンジャー活動支援室の主な取組状況」の報告を行った。

(3) 審議

■河川レンジャー年間活動計画（案）の承認について

- ・ 河川レンジャー5名の年間活動計画（案）が提案され、西島河川レンジャーを除く4名の計画が承認された。
- ・ 西島河川レンジャーの年間活動計画（案）については、本人欠席により動画記録による説明を行ったが、質疑に対する応答が確認できないことから承認保留とされた。今後、本委員会からの質疑やコメントを事務局が伝え、それらを踏まえた西島河川レンジャーからの計画の修正版を委員に共有し、承認に向けた調整を進める*。
- ・ 各河川レンジャーの年間活動計画（案）に対する委員の意見・助言を以下に示す。

【根木山 河川レンジャーの年間活動計画（案）について】

- 野洲川上流部における活動展開について、呼び掛ける相手や具体的な活動のイメージがあれば教えて頂きたい。

⇒□現時点においては、まずリサーチを兼ねて野洲川上流部の現地確認（川へのアクセス

ルートや川遊びできる場所の確認など)を実施したいと考えている。そのうえで、イベントを企画し、チラシを持って地域の公民館に挨拶に行き、活動のきっかけづくりをしたいと考えている。

- 活動の見える化(動画作成)について、見える化することの目的を教えてください。また、動画にまとめる際には、これまで集めた声の一部を切り取って編集することになると思う。その切り取った動画も別途編集し、今まで聞いた声を全て確認できることも良いと思う。
 - ⇒□今年度どこまで取り組めるか分からないが、切り取った動画も丁寧に見えるようにしたいと思う。
 - ⇒○動画作成を行う際は、ターゲットを絞り、何を伝えたいかを分かりやすく編集して頂ければ“川に寄ってきて欲しいのか”“河川レンジャーになって欲しいのか”など、見る方にとって有益かと思う。
- 動画を撮った後は、どのような形(媒体:YouTubeなど)を活用し周知するのか。
 - ⇒□正式な形については、今後支援室と相談しながら進めたいと思う。個人的なイメージでは、YouTubeやSNSに動画をアップロードし、誰もが閲覧できるような形を取ることを考えている。また、動画をアップロードしただけでは中々閲覧してもらえないかと思うので、予算を使ってプッシュ型の広報も併せて考えている。
- 野洲川上流部に活動を展開することのチャレンジは非常に心強いと思う。一方で、これまでの野洲川下流部(中洲地区)の経験上、新しい場所で活動を展開する際の懸案を想定されているのか。その懸案について、明確であれば支援室の支援にもつながるかと思う。
 - ⇒□主な懸案としては、特に公的機関に初めて挨拶に行くと不審に思われることが挙げられる。これは、中洲地区で活動を行う際にも同様のことがあり、公的機関の方とすぐに打ち解けて情報交換することは難しいように思う。特に、野洲市や栗東市は付き合いがなく未知の部分がある。そのため、公的機関にアプローチを行う際には、支援室にも同行頂き、和やかな場づくりの支援を頂ければと思う。

【水上 河川レンジャーの年間活動計画(案)について】

- 野洲川河川清掃活動について、過年度より継続的に取り組まれており、将来的には住民主体に移行するという課題を持っていると思うが、今年度はどのあたりまでの仕掛けを検討されているのか教えてください。
 - ⇒□住民主体に移行することは、非常に難しいと考えている。本活動は、河川レンジャーの理念・あるべき姿の最終段階の部分に該当するものであるため、相当時間を要するとは思いますが、何とか成し遂げたいと考えている。具体案としては、現在つながっている各主体(企業、地元中学校)と信頼関係を深めて、かつ、企業を主体とする協議会を立ち上げられればと思う。その時には、最初の立ち上げ時には行政にも助けて頂ければと思う。
- これまで野洲川を親しむイベント(清掃活動、幼木伐採)を展開されているが、これに地元の方の声がどれだけ含まれているのか、また、要望されているのか。住民主体に移行するうえでは、地元の方が続けていこうという気持ちが必要と思う。現時点においては、水上レンジャーが主導している印象が強いように感じ、その部分が少し心配だなと感じました。
- 野洲川河川清掃及び幼木伐採の活動は、非日常的なイベント(年1~2回)の開催と思わ

れるが、これを日常的な野洲川の利用促進につなげていくためには、どのように考えているのか教えて頂きたい。

⇒□野洲川河川清掃については、企業（レイマック）とつながっている。本企業は、毎月野洲川で清掃活動を自主的に取り組まれている。その取り組みの中で、地域の方とも一緒に実施できればいいなと悩んでいるところを河川レンジャーとしてつないだことがきっかけで現在までに至っている。本企業については、日常的に河川清掃に取り組まれている（年12～13回）。

⇒○レイマックだけでなく、住民個人の方がふらっと出かけるような川になると良いと思う。その辺の工夫をできるといいと思う。

⇒○例えば、野洲川では浸水想定区域図が公表されており、それと立地との関係を含めて水防災的な話し（国土強靱化における樹木伐採など）できっかけをつくり地元住民や企業につながっていければと思う。

⇒□野洲川は、治水事業がほぼ完成しており、住民の水防災に関する意識を醸成したり、それを活動に結びつけたりすることが難しい状況と思う。そのため、水防災に限定するのではなく、今一度、地域にヒアリングを行い、ニーズを掘り起こしたうえで、最終的に住民主体の活動に移行できればと思う。一方、琵琶湖河川事務所で「流域治水」に力を入れて取り組まれているため、ソフト対策の部分で河川レンジャーとして関わって行ければとも思う。

⇒○琵琶湖河川事務所としては、国・県・市が一体となって、流域治水を含めて河川レンジャー活動を支援できればと思う。国と市と県が仲よく、うまく役割分担してやっているなというのが見えると、「ああ、行政も捨てたものではない」と思ってくれる。それが一番理想なので、誰かが負担をしている、誰かが偏っているということがないのがベターかなと思う。

【福西 河川レンジャーの年間活動計画（案）について】

○ オオバナミズキンバイの活動について、本種は、特定外来生物に指定されており、早期発見・早期駆除が重要かと思う。駆除した後については、基本的に焼却処分になると思う。今年度の河川レンジャー活動では、本種の実態把握を行うということであるが、駆除後の焼却処分についても検討のうえ進めて頂ければと思う。

○ オオバナミズキンバイの課題を把握する活動を計画されているが、単純に「Yes or No」で答えるようなものではなく、正しく知っているかどうかを確認する必要があるかと思う。具体的な設問を検討頂ければと思う。

○ 瀬田川の漁協組合が主催の「瀬田川クリーン作戦」において、オオバナミズキンバイ等の外来水草の駆除活動を毎年4～5回程度実施されている。このような活動に参加することも良いと思う。本活動に対して、琵琶湖河川事務所も協力しており、駆除した外来水草の仮置き場の設定や焼却処分の手続きなどを担当している。

○ 釣り人とは、河川レンジャー活動においてネットワーク化を図れているのか。

⇒□釣り人には、河川レンジャーというものに興味を持って頂いており、SNS上でもつながっている。SNS上につながった中には、疑似餌を作る方がおり、河川清掃で拾ったルアーを回収→ペイント→キーホルダー化している。そのキーホルダーを河川レンジャー活動時に子どもに配布できるよう寄付頂いたこともある。

- ⇒○そのようなつながりを通して、瀬田川に「ゴミを捨てるな」という啓発がうまく広がると良いと思う。
- 瀬田川で活動されている大学のボートクラブの方とは、日頃接触はあるのか。
- ⇒○河川レンジャーとして挨拶し、名刺を渡している。ボートクラブの監督と会話する中で、瀬田川の利用においての不満などはなく、「これからもよろしくお願いします」、とのことである。
- 瀬田川での清掃活動について、琵琶湖河川事務所主催の「瀬田川一斉清掃」に参画し、瀬田川の利用者のニーズ・課題を収集することは効率的かと思う。
- 琵琶湖河川事務所主催「瀬田川一斉清掃活動」については、支援室に情報提供しているため、うまく活用して頂ければと思う。

【野村 河川レンジャーの年間活動計画（案）について】

- 瀬田川たんけんたいの企画について、琵琶湖河川事務所の関わり方のイメージがあれば、教えて頂きたい。
- ⇒○本企画は、E ボート乗船体験や河床観察など、実際に川に入る活動を計画している。その川に入る部分の安全に関する支援を頂ければと考えている。また、河川に関する専門的な知識の部分についても、必要に応じて支援頂けるよう依頼できればと思う。例えば、子どもたちに対して、洗堰の仕組みなどを説明頂ければと思う。
- ⇒○本企画に参加される子どもたちが主体的に調べたり、感じたり、川のこともっと知りたいと思ったりするようなきっかけとなる場になれば良いと思う。その部分を河川レンジャーとしてコーディネートするというのを大事にして頂ければと思う。
- ⇒○親子が取り組む活動は少ないと思うので、非常に良い取り組みと思う。今年度の参加対象は親子10組であるが、今後、参加者を増やしていくことを考えているのか。
- ⇒○今後増やす可能性もあるが、今年度の結果を踏まえて検討したいと思う。
- 学習指導要領の関連表作成の活動について、瀬田川たんけんたいの活動結果を踏まえつつ、整理するというイメージなのか。
- ⇒○本活動については、子どもたちが小学校での学びを通して、「どの部分まで学んでいるのか」「どういうところに疑問を持っているのか」を明確に、これから河川レンジャーの活動に関わる人たちにも使ってもらえたら便利と思って企画したものである。活用例としては、次年度の教科書と見比べて、「上流のことが具体的に書かれていない」「利水のことばかり書いているな」等の気づきにつながり、更には子どもたちに対する言葉かけも変わってくると考えている。
- 住民と行政の連携イベントの「水辺の匠」が7月23日（日）に予定されている。活動の参考になるのではないかと。また、7月10日の河川レンジャー研修でもできること、できないことを確認していただき活動を進めていただけたらよい。また、河川レンジャートライアルの協力も仰ぎながら取り組んでいくこともできると思うので、支援室とも相談しながら進めてほしい。

【西島 河川レンジャーの年間活動計画（案）について】

- 西島レンジャーに限ったことではないが、「河川レンジャーはイベントを開催する人ではない」ということと、「河川事務所のやって欲しいことをする人ではない」ということを思って活動を見ている。ただし、河川事務所の折り合いの共有ができれば進められたらよいと思う。特にイベントを開催する人ではないということは譲れないところである。イベントを開催することによって、その先に何があるのかを考えた、あるいは見据えた計画を立てていただきたいと思う。レンジャーマネージャーにそのあたりを介入して頂ければと強く思う。
- 活動計画の中で、イベントの開催というもので終わっているものが目立つ感じがしている。その開催が主目的ではなくて、その開催によって声を把握するのであれば、すでにあるイベントや地域の集まる機会のできるのではないかと思う。そのへんを注意いただいて活動を進めていただけたらと思う。
- マルシェをどういうために開催したいのかというのをまずは、自分の中で位置づけて進めてもらえたらと思う。次年度にするにしても、出店者へのアプローチなどが今年度の意識が気になるのかもしれないが、どこでするのか、マルシェは周りのいろいろなこと、出店料や出店者を条件設定しないとできないので、周りの設定、開催要項みたいなものまで、下準備としては考えていく方がよいかと思う。
- アンケートをされる活動について、レンジャーミーティングなどで吟味されて内容を検討されると思うが、聞き方で得られるものが変わるので、慎重に設問はどういうものを得たいかを前提に工夫してほしいと思う。
- 河川レンジャーはイベンターやプロデューサーではない。コネクションづくりという点では、河川レンジャーとしてのコネクションづくりであることに力点を置いてやってほしいと思う。
- イベントのその次を見据えた計画が大事だと思うので、そのあたりを工夫していただければと思う。
- 他に計画されているごみ清掃イベントなども今日の話で瀬田川一斉清掃の行事の話もでてきたが、例えば計画している場所でよいかや、ほかの行事などとの組み合わせも考えて実施してほしいと思う。

※西島河川レンジャーの年間活動計画案は、本結果をもとに本人より7月13日に修正案の再提出がなされ、それを委員が確認し7月25日に承認された。(別紙1、別紙2を参照)

以上